

Pai

～仲間



2014
Winter Edition
Vol.84

20周年記念式典・ 記念講演会・祝賀会を開催しました。



Contents

国際化協会設立20周年記念講演会「多文化共生の実現を目指して～大和市の未来は多文化共生から」	2～3
Hello everybody! 外国人市民インタビュー 安谷屋エクトルさん	4
行ってみたいなあのお店『シナモンガーデン』	5
市内国際関係団体のイベント案内	6
公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ	7～8

国際化協会
設立20周年
記念講演会

多文化共生の実現を目指して～ 大和市の未来は多文化共生から

NPO法人多文化共生センター大阪 代表理事 田村 太郎氏

9月28日(日)
大和市保健福祉センター
1Fホール



ちょうど20年くらい前、私は大阪で、フィリピン人向けのレンタルビデオ屋さんをやっていました。その仕事をやっていて驚いたことが2つあります。1つは、私のお客さんがしゃべる日本語が、ものすごく偉そうだと。98%はフィリピン人女性で

す。「おい、ビデオあるか?」って。でも、すぐ気が付いたんですね。偉そうなのは私のお客さんじゃなくて周りにいる日本人なんです。そのうちお客さんからいろんな相談事を持ちかけられるようになりました。「知らんやん」って思ってもお客様ですから。ある日は、「私、妊娠しちゃったの。どうしていいかわからない…。僕もわからないですね。一生懸命に調べて、それ伝えてということをやっていました。

当時日本語教室に通って勉強している方は、ほとんど私のお客さんにはいませんでした。残念ながら、その状況は20年前と今とあまり変わっていません。そして2つ目に相談する場所もない。大変だなあと思っていたら阪神淡路大震災が来たわけです。ゆれました。本当に怖かったですね。次の日にビデオ屋さんに行きましたら、電話がかかってくるんです。そこで通訳が電話に出ますというサービスを地震の翌々日からはじめました。震災から半年間、その活動を行ったんですが、集まったボランティアで95年の10月に多文化共生センターというのを作りました。全国に5団体あって、私は多文化共生センター大阪の代表理事をしています。

最近、東北の復興の仕事が私の仕事の半分くらいで、そこで実感するのは、「地域において多文化共生をしっかりとやっていかないといけない」ということです。皆さんが思っているような日本社会というのはもう昔の話。若いボランティアは来ないし、仮設住宅もすぐには建たない。人口の問題です。特に地方は非常に厳しい。阪神淡路の時との一番の違いは、神戸と東北の違いではなく、1995年の日本と2011年の日本の違いです。これからの地域社会をどうしていくのか考えた時、必ず外国人の方の力を借りなければいけない、この発想に早く立たないと、地域の未来がありません。

ヨーロッパにおける多文化共生の状況

これは日本においての話だけではありません。1970年代、ヨーロッパは、このままだと社会を維持できないだろうという状況に直面しました。そこで主に、北部ヨーロッパ諸国では、「税金が高いが福祉は充実している」社会に転換しました。でもその時に同時に移民政策を導入していることは、あまり日本では紹介されません。例えばスウェーデンは、「高福祉・高負担社会」を作ると同時に、主にベトナムやアフリカからの難民の方々を受け入れました。これは大きな決断だったと思います。一方で、南部ヨーロッパでは、積極的に「高福祉・高負担」社会にかじを切ったわけではなく、移民の力を借りることもしなかった。結果、ヨーロッパで今大きく2つのグループに分かれて

いるんです。北部ヨーロッパ諸国は、「介護や子育てを制度化」しました。社会で福祉サービスを充実させていこうということ。その結果、女性の就業率と世帯当たりの所得が上がることで出生数が増加します。出生数が増えて20年たつと生産年齢人口が回復していきます。20年、40年くらいかかる話です。40年たつてかなり差が出てきます。北部ヨーロッパ諸国は、合計特殊出生率が大体1.8～2くらいまで回復しています。一方で南部ヨーロッパは1.3くらいで、人口が

どんどん減っていく。

経済協力開発機構に加盟している国の中で、男女間格差指数と2005年から2020年までの15年間の生産年齢人口の推移を合わせてみると、女性の社会参画が進んだ国は、人口が増えるか、緩やかに増えるグループになっています。一方で女性の社会参画が進まなかった国は、人口が著しく減る、ということになっています。

日本は、男女格差指数で、女性の社会参画が、加盟国の中で最も遅れている方から数えて3番目。人口は、最も減少する見込みで、生産年齢人口は12%減ります。非常に雑な言い方をしますと、働いて税金を納める人の数が12%減るんです。だから、消費税は何%にあがろうと、たぶんカバーできない。ヨーロッパが、社会実験をしてくれたような状況です。日本はどちらを選択するかです。

東京オリンピックが2020年に決まりました。政府は外国人を建設業に関して、5年間、技能実習生として受け入れる緊急措置を発動しています。人手が足りないことはわかっているのです。2012年のロンドンオリンピックでもやはり人手不足でした。オリンピックの会場を作ったのはポーランド人やルーマニア人です。EU地域は拡大しています。東京オリンピックどうするのか。戦略がありません。たった5年働いて何の技術もつかないまま帰る、という選択をしてくれる人があると思っているならそれは無理です。オリンピックに間に合わない懸念しています。

ヨーロッパは考えています。EU地域拡大。あるいは、社会統合政策。時々日本の新聞記者が、ドイツのメルケル首相が「多文化共生は失敗だった」と言っているという記事を書くんですけど、あれは嘘でして、メルケル首相が言ったのは、「古典的多文化主義は失敗した」。「古典的多文化主義」とは、ドイツに行ったトルコ人に、ドイツ語を教えることは、同化政策にあたるから教えない。トルコの文化を大切にしましょう。フランスに行ったアルジェリア人にフランスの文化を強要するのは同化政策だからやめておこう。結果として放置されて、経済格差が拡大してしまったんですね。これは失敗だと言っているだけです。

今何をしているかというと、自国の言葉や文化を、新しく来た外国人の方に教えるということ。無料もしくは非常に安い値段で、プロが、政府の予算でやっています。これを社会統合政策と言っています。日本ではこれが法律になっていませんので、それぞれの自治体で、一生懸命ボランティアと一緒に日本語教室を地域でやっている。もうちょっとこの日本語教育を地域あるいは国として力を入れないといけないのかなと思っています。

アジアにおける多文化共生の状況

アジアも人口減少社会に入ってきています。日本も非常に厳しい状況なんですが、韓国や中国も厳しい。韓国は2007年に、法律を整備し、各自治体も条例を持っています。中国も、今、移民受け入れを議論しています。もう隣の国に人を送るような余裕は中国にはありません。中国の生産年齢人口のピークは2015年です。今、中国でも、都市に行きますと、多文化共生政策を掲げています。

以前だったら、フィリピンから若い女性が、日本人男性と結婚する、と来日していました。でもアジアの中で、今は韓国です。日本に行っても韓国に行っても、中国でも上海辺りに行ったらもう賃金はあまり変わらないです。その国に行って、その国の人が親切に言葉を教えてくれるのか、病気になったら通訳が付くのか、できたら子どものサポートをしてくれるのか、それで選びます。今まで日本を選んでいった人たちが、より多文化共生が進んだ国を選ぶようになります。そればかりか、日本生まれ日本育ちの人も、別に日本にずっといる義理は

ない。多文化共生施策は、こちらでやるかやらないかにかかわらず、他の国々がやり始めると、そちらに人は移動するんです。本当は市役所のと真ん中でやるべき施策です。日本に来て困っている外国人のためにやるのが多文化共生施策ではありません。地域の未来を見据えて、真剣に、外国人も含んだ、地域の未来のためにやるのが多文化共生施策です。

日本における多文化共生の状況

日本でも、1980年代の後半、景気の良かった時期に、外国人を受け入れようという話がありました。ところがその当時政府の結論は、いわゆる単純労働としての外国人は受け入れない、というものでした。単純労働は、受け入れないが、日系人の里帰りや、日本の高度な技術を研修に来るということだったらしいですよ、と例外的に受け入れる政策をとりました。本当は外国人に来てほしいんだけど、いろいろ議論がめんどくさいから、入れないという風にして、横を開けたということです。当然ほかの国では、議論して、国民的合意があって外国人の受け入れを決めたら、法律を作って、制度を整えて、人材育成をして、そして受け入れる。ところが日本は、多くの国民は理解不能です。国民が理解できない上に、当然準備しておくべき支援策がないまま、日本の外国人受け入れはスタートした。外国の人が来て勝手に困っているではありません。日本社会の問題です。この認識が必要だと思います。

ようやく2005年度から総務省は、多文化共生の推進を掲げて、施策を体系化し、「多文化共生推進プラン」を発表しました。ただし、国ではなく自治体が行うべき施策をまとめたものです。総務省としては、自治体が行うべき国際施策というのは、国際交流と国際協力、多文化共生の3つだと言っております。

同じ2006年に、内閣官房が、生活者としての「外国人に関する総合的対応策」を出しています。大きいのが在留管理制度の見直し、2012年7月に施行された、改正住民基本台帳法です。それまでは、外国人登録制度というのがあって、日本で暮らす外国人は役所に行って、外国人登録をしていました。いまは、外国人も住民基本台帳に登録することになっています。これは、外国人側からすると不評で、今までは役所で外国人登録証をもらっていたのが、入国管理局へ行って在留カードをとらないといけない。入国管理局ってそんなにあちこちにはないですからね。非常に不便になります。それから、登録すべき中身はあまり変わらず、極めて管理的な要素が強いままであるので、法律として改「正」ではない、みたいなことを言われたんですが、自治体から見ると、きわめて大きな意味があります。外国人登録の目的は、外国人の公正な管理でした。ところが住民基本台帳の目的は、住民の利便の増進です。目的が全然違います。したがって、日本の自治体は、外国人住民の情報を住民の利便の増進のために使わなくてはならなくなったんです。このことの意味は大きいはずです。

日本で暮らす外国人

今だいたい212万5千人ぐらいの外国人の方が全国で暮らしています。今から20年前は、外国人登録者数が、130万人ぐらいだったと思います。本当ははいはいけない非正規滞在の人が30万人います。外国人の6人に一人は非正規の滞在だったんですね。今は、206万6千人。そして非正規滞在の人が大体5万9千人ぐらいで、割合でいうとぐっと少なくなりました。リーマンショックや震災があって、外国人が減ったと思っていらっしゃるかもしれませんが、減ったのは大体5万人ぐらいで、リーマンショック以降、ちょっと減りましたが、昨年末、再び増加に転じています。外国人は減っていません。東北3県でも減少はストップして、増加に転じています。

いま日本で暮らす外国人の方の半分は、日本に永住する資格をもっています。リーマンショックや原発事故があっても、もう帰らない、生活の本拠はこちらにあります。

日本では今、原則として10年間継続して日本で暮らしていて、税金

の納め漏れや法律違反がない場合、永住者資格を申請して認められることが多いです。2000年代に入ってから、新たに永住資格を認められた方が年間3万人から4万人います。人口が減っている日本において、永住する外国人の方がこんなに毎年増えているんです。それから、日本に観光などで訪れる外国人が去年初めて1000万人を超えましたが、2020年までに2000万人にすることになっています。

外国人の方が、日本に来て何に困るのか?「コミュニケーション」を課題にあげられる方が多いです。道を聞かれると、「英語できません」という方が多いですね。でも何語でも、場合によっては日本語でもいいんですよ。コミュニケーションをとることが億劫な市民の方が多いですね。そこをどのように改善していくかということだと思います。

逆に、街の中で気になっているのは、意外と多言語の看板があふれているんですが、この看板が「防犯カメラ作動中」とか「両替できません」で、同じお店のどこを見回しても「ありがとうございます」「いらっしゃいませ」の多言語がないんです。これを見て外国人の方は、「ちょっと気分悪いね」って思うと同時に、子どもたちどう思いますか?はじめて出会う日本語以外の言葉が、「防犯カメラ作動中」ですよ。ここが、日本社会の非常に大きな課題ではないかと思っています。

地域で多文化共生をすすめるために

大和市で地域の多文化共生を進めていくに当たって、3つの視点で、地域を見直していただきたいと思っています。「あってはいけないちがいが」というのがもしまだ残っていれば、これをなくしていただきたい。それから、「なくてはならないちがいが」ってやっぱりあります。せっかく違う文化を持った人がいるんだったら、これを守りながら地域を豊かにしていくということです。そして、「ちがいを大切に」社会を作っていく、ということです。外国人は外国人だけで暮らして、日本人は日本人だけで働く、これは「すみわけ社会」です。最近日本はこちらに向かっている気がするんですが、「違いは受け入れるが、お互いに変化しあうことはないの、影響を及ぼさないように暮らしましょう。」これは多文化共生ではないです。「共生」は、「ちがいを受け入れ、かつ共に変化する」。ともに変化するのがポイントですね。私たちの今までの社会の在り方を少し変化させてみよう。せっかく大和に、いろいろな国から市民の方が来ているんだったら、お互いのことを知って、新しいルールを作ってみる。みんなが暮らしやすい新しい大和の文化を作っていく、これが共生社会です。今までの私たち日本の地域社会は、外からの刺激を受けて変化してきたのではないのでしょうか?その積み重ねが今の日本の豊かな社会だと思います。これをもっと深めていこう、というのが多文化共生社会ではないかと思っています。

まとめると、「多様な担い手が活躍できる社会を作りましょう」。日本人のボランティアが、外国人住民に何かをしてあげる社会ではありません。「外国人住民もともに地域を新しく作り変えていく」これが多文化共生社会です。すでに地域で活躍している外国人の方いらっしゃいます。そういう人たちを育て、増やして、そのことを他にもPRしましょう。すると、大和に行くとチャンスがあるんじゃないか、と元気のある方たちが大和に来て新たなチャレンジをしてくれる。それが大和の活性化につながっていきます。外国人の方が暮らしやすい地域というのは、本当は日本人にとっても暮らしやすい。そして、すでに多文化共生社会にするには何をすればいいの、ということ、もうはっきりしている。あとはやるかやらないか、あるいは誰がやるのか?この2点にテーマは絞られていると思ってください。

20年間、非常に有効な取り組みがあるうえで、いろいろ申しあげましたけれども、私も、大和市のこれからの活動にはずっと注目をしていきたいと思っています。あと20年後、どんな日本社会になっているのかは、ある意味ワクワクするし、ある意味不安ではあります。でも、おそらくその真ん中に多文化共生という言葉があって、「だから大和市でよかったな」、そんな20年を作っていっていただきたいと思っています。

Hello everybody!

外国人市民
インタビュー

安谷屋 エクトルさん



10月26日から11月3日まで、大和市生涯学習センターで行われていた市民芸術祭の一般公募展に外国人市民としてはじめて写真を出品された、市内の日本語教室に通う安谷屋(あだにや)エクトルさん。今回の作品には、こんなエピソードがありました。

実はエクトルさん、去年の11月に、職場での不運な事故により、左手をひじの先から失う大けがを負いました。

200トンものプレス機が落ちてきたときは、もう元には戻らないだろうと確信したけれど、不思議と痛みは感じず、それよりも、憔悴する妻の様子が気になり、なかなか始まらない手術を待つ時間がとても長く感じられてつらかったそうです。それは、麻酔から覚めても同じ。自分の想像よりももっと腕を切断されてしまっていてショックだったけど、どこか自分のことではないようにも感じていました。

本当の絶望感が襲ってきたのは、退院してから。何一つ満足に、自分の力ではできないのです。入院中は、身の回りのほとんどのことを、そばにいる人たちが代わりにやってくれていたことを知りました。ようやく少しの時間眠れても、嫌な夢ばかり見ては、何をやる気にもなれない毎日。家から出られるようになるのに、しばらくの時間がかかりました。

エクトルさんは、今から25年前、ペルーから日本にやってきました。小さな商店を営んでいた父親が亡くなり、大学へ通い続けることが難しくなってしまったからです。学費を稼いで、大好きな文学の勉強をもう一度続けよう、そう思って、祖父母の国へ。慣れない工場での仕事。日本語も一生懸命学びました。それでも、派遣会社を通して採用される身は、景気によって簡単に左右されます。年齢が上がれば、仕事を選ぶことも難しくなります。2008年のリーマンショックの後には、できることならやりたくないと思っていた、プレス工場での仕事に就かざるを得ませんでした。

もちろん、日本での生活は、つらいことばかりではありませんでした。写真をはじめると、あちこちに出かけては、富士山と朝日の写真ばかりを撮り集めました。お金を貯めて、望遠レンズを買ったときは、(周りの人たちのカメラにちょっと気後れしたけれど)すごく嬉しかったし、もっと富士山に近づきたくて、パラグ

ライダーも始めました。富士山から野鳥の撮影に興味移ってからも、いろんな鳥の名前を教えてくれたのは、プレス工場の、日本人の大先輩でした。そんなこともこんなことも、もう、2度とできないんだ。そう思ってたばかりでした。

妻に励まされて散歩に出かけ、公園で、野鳥をながめる。少しずつでも続けていくうちに、もう一度カメラを持ってみようという気持ちになってきました。もちろん右手だけでは思うような写真は撮れません。それでも、生き物を相手に集中してその瞬間を待つうちに、気持ちの方は、ちょっとずつ落ち着いてきました。気持ちが上向けば、できることはどんどんと増えていきます。3月にはもう、片手で、車の運転もできるようになっていました。

今回の写真は、まだ上手には撮れないけれど、でもまた、写真を続けていけるかもしれない、そう思うことができた大切な一枚なんだそうです。

一番好きなのは、本を読むこと。家にある、1000冊もの蔵書も自慢の一つ。「ものすごく古いアパートだけど、窓が大きくて明るいから、外を見ながら本を読むのがいい。桜がよく見えるから、その季節が最高。今は時間ができたから、日本に暮らす日系人を題材にした小説を書きたいと思っているんだ」とも話してくれたエクトルさん。

今でも、その瞬間のことは覚えていないし、会社があった方へ足を向けることもできないそうです。それでもまだ、事故から1年しかたっていないとは思えないほど、強い気持ちをもって、新しい生活をはじめられていることに、とても驚きました。いつかエクトルさんの小説を読める日が来るのが楽しみです。



カメラを手に笑顔のエクトルさん



獲物を攻撃しているチョウゲンボウ(エクトルさん撮影)

TRAVEL SUPPORT Inc

トラベル サポート 海外正規割引航空券
ホテル・現地ガイドの手配もOK

TEL 046(204)7714 E-mail travel-support.h@gol.com



シナモンガーデン

16年前、「インド洋の真珠」とも呼ばれる美しい島国から、一人の青年が、ここ大和にやってきました。若き日のシナモンガーデン オーナーシェフ、アミラ ペレラさんです。

夢は、先に来日していた兄とともにビジネスを成功させること。それから今まで、ずっと大和に暮らしながら、泣き、笑い、日本語を覚え、家事のコツを知り、和食料理屋でアルバイトをし（そこで料理と飲食業の楽しさに目覚め）、ビジネスを学び（加えて5年ほど教えたり）、妻と出会い、二人の子どもに恵まれ、そして今年の7月、念願だったレストランをオープンさせました。アミラさんの母国は、スリランカ。そしてこのお店、非常に「スリランカらしいお店」であります。

シェフは育メン

1960年に、世界で初めて女性の首相が誕生したのがスリランカ。女性の社会進出がとて進んでいる国なんですね。だから育児に積極的なお父さん（＝育メン）は当たりまえ。アミラさんも「育メンスリランカ人シェフ」として、お店を切り盛りしながら子育てに奮闘中です。育児休暇中の奥様の職場復帰も近づいてきました。これからは都内に勤務する妻と共に、自宅で開業している自分が、今以上に子育てを担っていかなければなりません。3世代同居で大家族のスリランカと違って、核家族で、しかも異国での子育て、育メン宣言は勇気が要るものだったのではないかと想像します。でも、育メンであることで、お店にとっていいことも。冬瓜、ししとう、ハヤトウリ、どれもお客さんからのおすすめ。保育園のお友達が家族で食事に来てくれることもあります。地域につながりができるから、たくさんの方が応援してくれるんですね。



住 所：大和市林間2-22-19
営業時間：ランチ 11:30～14:00
ディナー 18:00～21:00
(金・土は22:30)
定 休 日：月・祝日
日曜日はランチのみ不定期営業
詳しくは、Facebook、Twitterで
電話番号：046-205-2508
駐 車 場：2台



カレーじゃなくてスパイシーフード

スリランカは、インドの先にある、北海道を2回りほど小さくしたぐらいの大きさの島国です。南アジアというと、「カレー」というイメージがあるかもしれませんが、シナモンガーデンのお料理を頂いてみると、いわゆるカレーを食べている、という感じは全くしません。それよりも、いろいろなスパイスがバランスよく組み合わさって作られる味の深みがとにかくおいしい！スリランカではよく、調理の最後に「『ルヌ』と『アンブル』を整えて！」というのだそうですが、「ルヌ＝塩味」と「アンブル＝酸味」を大切にすることで、母国でお母さんがブレンドしてくれているスパイスのかがりが引き立ちます。



もう一つの楽しみが、スリランカのお酒。世界的にも名高い「ライオンビール」の黒ビール、ココナッツから作られているアラック（蒸留酒）やリキュールなどのめったに味わえないお酒が、ゆっくり料理と味わってほしいからと、どれも価格を抑えて提供されているので、こちらまで楽しんでみてください。

もちろん、いずれはもっとお店を大きくしていきたい、という夢があります。でも、それは子どもが大きくなってから。それでいいと思えるのは、子どもを大切に思っていると同時に、努力を重ね、異国であっても、しっかりと自分の基盤を築きあげたからこそなのだと感じました。

日本に来るまで、料理も家事も一切やったことがなかったと



いうアミラさん。大和の育メン仲間一言！とお願いすると、「（夫婦は）お互いに大変だから相手のことをよく見て」とのこと。ますます応援したくなりますね。

地域密着・顧客密着のクリエイティブ集団

SINCE 1885



似顔絵名刺で
集客！UP

会話の
きっかけに
なる

キャラクターで
売上！UP

一目で
イメージが
伝わる

デザイン

似顔絵
キャラクター

販促支援

印刷

広告

ホームページ



さん太くん

ご相談無料

株式
会社

さんこうどう

http://www.sankodo.net

0120・3510・13

市内国際関係団体のイベント案内

神奈川県央日韓親善協会主催 市民講演会

日 時：2015年2月14日(土曜日)
午後2時30分～午後4時(受付：午後2時)
場 所：大和商工会議所大ホール
大和市中央1-5-40 TEL 046-263-9111
定 員：100名(先着順で締め切りさせていただきます)
申込み：FAX：046-264-6222
Mail：nkougyou@jasmine.ocn.ne.jp(事務局 長嶺まで)
講演者：比較文化学者・評論家 金 尚基氏(キム・ヤンキ)
主催者：神奈川県央日韓親善協会
後 援：大和市・公益財団法人大和市国際化協会・駐横浜大韓民国
総領事館・在日本大韓国民団神奈川県地方本部／大和支部
参加費：1,000円

基調講演

日韓国交正常化50周年記念市民講座
[日韓交流の始祖朝鮮通信使に学ぶ、
そして更なる交流と相互理解を目指して!]



金 尚基氏

日韓交流の始祖である朝鮮通信使を学び、日韓国交正常化50周年記念の年に朝鮮通信使の現代的意味と新しい日韓関係を模索して、更なる市民交流の拡大と相互理解を目指す。

Ed.ベンチャー教育講演会

「しんどい子を支えることは、しんどい子のためだけじゃない」

学力の向上が、教育現場の至上の命題となっている今、学力格差が問題化してきています。学校では、プリント学習が中心で、宿題を増やし、テストを繰り返す教室の風景が当たり前になりつつあります。こうした中で育つ子どもたちが抱く未来の社会イメージとはどのようなものになるのでしょうか。今回の講師は、この問いに向き合う大人に、社会関係資本の必要性を説いています。しんどい状況の中でもがく子どもたちと「つながる手」を増やすため、学校、親、地域に何ができるのでしょうか。一緒に考えてみたいと思います。

日 時：2015年2月21日(土) 午後1時30分～4時30分

場 所：大和市渋谷学習センター2階 多目的ホール

講 師：志水宏吉氏(大阪大学)

問い合わせ：Ed.ベンチャー事務局 046-272-8980 toiwase@edventure.jp(事前の申し込みは不要です。)



やまと国際フレンドクラブ やまと国際交流パーティー2015

昨年好評をいただいた「やまと国際交流パーティー」を、今回もまた開催します。「世界各国のお料理やスナックを食べながら、国際色豊かなステージを見て、そしてみんなで踊っちゃおう!」というパーティーですので、ご家族連れで、お友達と、もちろん1人だって大丈夫、ぜひご参加ください。みんなでワイワイ楽しんで、国際交流しましょう!!

日 時：2015年3月21日(土) 午後1時30分 開会

場 所：勤労福祉会館3階ホール

参加費：大人 前売り1,000円 当日1,200円 子ども(3歳～小学生) 前売り500円 当日600円

申込み・問い合わせ：やまと国際フレンドクラブ事務局 info@ifc-yamato.com または、080-5451-0432
http://ifc-yamato.com



かながわ難民定住援助協会

三森ゆりか先生講演会

日 時：2015年1月24日(土) 午後1時30分～3時10分

場 所：KANAFAN STATION 神奈川県民センター2階

テーマ：日本語習得支援の言葉の芸術、教養、技術とは

対 象：日本語支援者、日本語学習支援者、一般(高校生以上)

参加費：1,000円

申込み：先着順に申し込みを受け付けます。

カンボジア料理教室

日 時：2015年2月22日(日) 午前10時～午後2時

場 所：大和市立渋谷小学校 家庭科室(予定)

講 師：ニアン・ソカーさん

メニュー：カンボジア・カレー、パパイヤサラダ、緑豆ぜんざい

持ち物：エプロン、三角巾、布巾、スリッパ

参加費：2,000円

主催、受付どちらも：NPO法人かながわ難民定住援助協会 046(268)2655(電話)、2451(Fax)

Email: nanmin@enjokyokai.org

チーム ピース チャレンジャー

【インド帰りのフェアトレード製品展示会】～インドでの手仕事～

女性と子どもの手作り・フェアトレード製品が並びます。また、西ベンガル州伝統の手刺繍(カタ刺繍)も展示します。

日 時：2015年1月29日(木) 午前10時～午後4時

会 場：大和市勤労福祉会館2F茶室

問い合わせ：080-3529-5135(蔵田さん)

チーム ピース チャレンジャーは、自立支援活動に取り組んでいるNGO団体です。

主にインドの貧困地域と言われているブッダガヤにて学校給食支援、女性たちの裁縫指導などを行っています。



大和地区日中友好協会「春節の集い」

日 時：2015年2月22日(日) 午前11時～午後2時

場 所：画廊喫茶「オルセー」(大和市鶴間2-3-10 小田急江ノ島線鶴間駅 徒歩3分)

内 容：軽食を楽しみながら、中国のお正月「春節」の訪れを喜びます。スピーチの披露もあります。

申込み：大和地区日中友好協会 046-269-7912(饗庭さん) 046-274-9125(遠藤さん) 046-240-6687(石井さん)



AJAPEよみきかせの会

子どものことばを育むためには母語でも日本語でも絵本を読むことが大切です。「AJAPEよみきかせの会」では日本語とスペイン語で絵本のよみきかせをします。「読書へのアニメーション」(モンセラット・サルツ著)を参考に遊びの要素を取り入れたよみきかせも行います。スペイン語が分からなくても大丈夫です。スペイン語のリズムを楽しみましょう♪

どなたでも参加自由、参加費は無料です。1月は図書館へおはなしを聞きに行きます！

日 時：2014年1月24日(土) 10:30～11:30

場 所：大和市立図書館 ☆正面玄関入り口に集合

内 容：児童書コーナーの説明、「うちどく」のお話し、絵本のよみきかせ

申込み：046-264-7070(9:00～16:00) 担当：高野



公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

国際理解講座「もっと知りたいイスラーム」

ムスリム(イスラーム教徒)女性の多くはどのようにして頭や体を覆うような服を身に付けているのでしょうか。

第1回講座では、「ムスリム女性とヴェール」をテーマにイスラームを探ります。いまやムスリム人口は16億人を超え、世界人口の4～5人に1人はムスリムとも言われますが、日本においてイスラーム教は「戒律の厳しい宗教」などというイメージでとらえられがちです。そうではないイスラームの側面を知るため、各国で異なるムスリム女性の服装に着目し、イスラームの多様性を探ります。

第2回講座では、「ハラール」に着目します。2020年に開催が決まった東京オリンピックの影響なのか、昨今ムスリム向けの食事が注目されつつあります。ムスリムが日本で食事も自由に楽しめない状況では「おもてなしの国」の面目が保てません。イスラームの教えで許された「健全な商品や活動」を意味し、特に食べるのを許されたものを指す「ハラール」について考えます。



●第1回 講師

ごとう えみ
後藤絵美

東京大学
東洋文化研究所助教



●第2回 講師

さく まともひろ
佐久間朋宏

一般社団法人
ハラール・ジャパン協会
代表理事

🕒 第1回 2015年2月22日(日) 13:30～16:00

🕒 第2回 2015年3月1日(日) 13:30～16:00

📍 生涯学習センター303特別室

📋 第1回 「ムスリム女性とヴェール」

📋 第2回 「ハラールって何？」

📋 第1回 東京大学東洋文化研究所助教 後藤絵美氏

📋 第2回 一般社団法人ハラール・ジャパン協会代表理事

佐久間朋宏氏

💰 各回300円(賛助会員は無料)

📞 電話または国際化協会窓口で、先着順に受け付けます。

公式Facebookをはじめました。

facebook 大和市国際化協会

検索

国際化協会の情報だけでなく、大和市内のいろいろな情報を多言語でお届けしていきます。国際化協会のHPのFacebookボタンをクリックして登録してね。

www.facebook.com/yamatokokusai



公益財団法人 大和市国際化協会からのお知らせ

講座、イベントへのお申し込み、お問い合わせは国際化協会事務局までお願いします。

■公益財団法人大和市国際化協会

〒242-0018 大和市深見西8-6-12

大和市役所分庁舎2階(大和市立病院の東側)

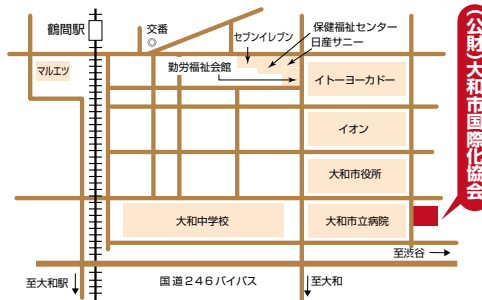
Tel:046-260-5126 Fax:046-260-5127

Email:pal@yamato-kokusai.or.jp

http://www.yamato-kokusai.or.jp

受付時間 月曜～金曜 第1・3土曜

午前8時30分～午後5時



マークの見方

- 🕒…日時
- 🏠…場所
- 👤…定員
- 💰…費用
- 🎯…対象
- 📄…内容
- 👩…講師
- 📝…お申し込み方法

レハナさんのバングラデシュ料理教室 参加者募集

- 🕒 2015年3月28日(土) 午前10時から午後1時
- 🏠 大和市保健福祉センター 3階栄養指導室
- 👩 バングラデシュ出身 レハナ アフリンさん
- 📄 **内容** バングラデシュの家庭料理「ディムブナ(エッグカレー)」や「キチュリ(混ぜごはん)」「ラッシー(ヨーグルト飲料)」を一緒に作りながら、講師の出身国であるバングラデシュの食文化や習慣などについての話を聞きます。
- 👤 **対象** どなたでも
- 👤 15名
- 💰 700円
- 📝 **お申し込み** 電話または国際化協会窓口で、1月15日(木)から先着順に受け付けます。(定員になり次第締め切り)



通訳・翻訳ボランティア スキルアップ講座

国際化協会の通訳・翻訳ボランティアを対象に、通訳や翻訳のスキルの向上を目的に講座を開催します。ボランティア登録にご興味をお持ちの方も参加いただけますので、お気軽にお申し込みください。各回の内容の詳細については、12月26日(金)以降、国際化協会ホームページに掲載します。

- 🕒 全4回開催します。日程は変わることがありますのでご注意ください。協会ホームページでご確認ください。
- ①2015年1月31日(土)午前10時から12時30分
- ②2月7日(土)午前10時から12時30分
- ③2月14日(土)午前10時から12時30分
- ④2月28日(土)午後1時から3時30分
- 🏠 大和市役所分庁舎3階会議室
- 👤 20名
- 💰 無料
- 📝 **お申し込み** 電話または国際化協会窓口で、1月5日(月)から先着順に受け付けます。(定員になり次第締め切り)

国際交流フェスティバルの出店者を募集します。

2015年5月24日(日)に開催する第10回やまと国際交流フェスティバルに出店を希望されるお店を募集します。

エスニック料理屋台コーナー

大和市の近隣にあるエスニック料理店が対象です。8店舗募集します。

- 📝 **お申し込み** 12月15日(月)から当協会窓口もしくはHPで配布する申込書に必要事項を記入して、1月31日(土)までにお申し込みください。出店料は15,000円(テントあり)です。

フリーマーケットコーナー

次のいずれかに該当する非営利団体が対象です。8店舗募集します。

- ・外国人市民の自立のために活動している民族団体・当事者団体等
- ・外国人市民を支援するために活動している日本語教室・学習支援教室等
- ・国際交流、国際協力活動を行っている団体等

- 📝 **お申し込み** 1月26日(月)から先着順に受け付けます。当協会窓口もしくはHPで配布する申込書に必要事項を記入してお申し込みください。出店料は1,000円です。

ボランティア交流会 学習支援セミナー

「楽しく学習させるための日本語教材」とボランティア座談会の開催

「子どもたちが楽しいと感じるために必要なことは何か」を考えたうえで、効果的な教材を見ていきます。個々にあった教材にするための使い方やアレンジの仕方、すぐに使える手作り教材も紹介します。当交流会は、大和市国際化協会日本語・学習支援ボランティアを主な対象としていますが、ご興味のある方は是非お申し込みください。

- 🕒 2015年3月15日(日) 午後1時開始4時30分終了予定
- 🏠 大和市役所分庁舎3階会議室
- 🏠 横浜市教育委員会 日本語講師
- 🏠 横須賀市教育委員会 日本語指導員
- 👤 NPO日本語・教科学習支援ネット 副理事 頼田敦子先生
- 📄 **内容** 第1部:学習支援セミナー「楽しく学習させるための日本語教材」
第2部:グループに分かれて、日頃の活動を通して感じたこと、課題などを出し合い意見交換を行う。
- 👤 30名
- 💰 無料
- 📝 **お申し込み** 1月15日(木)から先着順に受け付けます。電話、FAX、Email、直接窓口でお申し込みください。



http://www.sikirei.com/

大和斎場でのご葬儀もご用命ください。

ゆっくりとお別れのできる 一日一家族の葬儀式場

家族想いの 大和式礼

ご自宅でのご安置にお困りの方、当館霊安室でお預かりできます。

大和式礼 ☎0120-143-011 年中無休 24時間受付

大和市大和東 2-9-13 相鉄線・小田急江ノ島線「大和」駅北口より徒歩約6分